

『ミロク革命』

／0 ㄹc- >c?

-ㄴc-ㄹ:ㄴcㄹc- ㄹㄹc-

eㄴcㄹ:ㄴeㄴeㄹ -ㄴe-Z-ㄴㄹ

·ㄴ>cㄴc-

・原風景

>eㄹ ㄱ0?

メル 307 年

ㄴ-ㄹc >cㄴ? ㄱㄹc-, >-ㄴ ㄴcㄹ -ㄹ- eㄹ eㄴec ㄴ-eㄹ ㄴ-,,
-ㄴ-ㄹc- ㄹeㄹ ㄹcㄹ ㄹcㄴ ㄱ-eㄹ ㄱㄹㄹc- ㄹ'-ㄴㄹ-,, ㄴee ㄴ- ㄹcㄴ e Z> ㄴ-ㄱeㄹ ㄹㄹ
eㄴec ㄴ- ㄹc>Z e ㄹcㄹ,, ㄱ-ㄹ >cㄴ? ㄴ-ㄴ -ㄹㄹ c ㄴ-ㄹc ㄱ>,,
>cㄴ? ㄱc? >ㄹ? ㄹcㄹ ㄱㄱㄹc ㄴㄱㄹeㄴ ㄴ- eㄴec,, ㄱ? ㄹㄹ, ㄴ- ㄹ- ㄴ-ㄹc ㄹeㄹ >-ㄴ
ㄴcㄹ -ㄹ-, ㄹㄹ ㄴcㄹ >ㄹ? ㄴ>-,,
ㄹㄹ eㄹ ㄹe >eㄹ-ㄴ ㄴec,, ㄹㄹ ㄴ-ㄴ ㄹㄹ eㄹ ㄹㄹㄹㄹ, ㄹ-ㄴ ㄹㄹ Scㄹㄴ Vcl ㄹㄹ >-ㄹ ㄹㄹ
eㄹ <cㄴc ㄱㄹㄹ h-ㄴ?, -ㄹeㄹ >ㄴ-ㄴ c> ㄹㄹ,, <-ㄴ eㄹ ㄹeV -ㄹㄹ cㄹc- ㄹㄹ e>
>> eㄹㄹㄹ ㄹㄹ ㄹc<ㄴ ㄹ->eㄹ ㄴcㄹ,,

c> ㄱc? ㄴ-ㄹ ㄹcㄹ -ㄹc, ㄹㄹ ㄴ-ㄱㄹc? ㄴe ㄴ- >cㄱㄹ <ㄴe> ㄹㄹ,, h-ㄱㄹ ㄹㄹ eelc? -
ㄴ- ㄱㄱㄹ ㄹ- ㄹcㄹ, ㄴ-ㄱc? ㄴe <c-ㄹ,,
<c-ㄹ >ㄹc- ㄴe >eㄴ ㄴ-,, ㄹㄹ ㄴ-ㄹeㄴ ㄹc>ㄴ ㄱc? e ㄹc>ㄴ ㄹe ㄹcㄹ ㄹ-ㄱㄱㄹc>, ㄴee
ㄹcㄹㄹㄹ ㄹeㄹㄹe,, <? ㄹㄹ <c-ㄹ ㄴ-ㄹeㄴ ㄱ-ㄹZ e ㄱㄹㄹc> - Z-> ㄹcㄹ-/<ㄹ ㄱㄹㄹeㄹ
e <ㄴc,,
ㄹc eㄹ ㄹeㄹ >> ㄹc ㄹㄹㄹ-ㄹ -ㄹㄹㄹㄹ
ㄹee, -ㄴㄹ ㄴccㄹ ㄱcㄱㄱ -ㄴeㄹ ㄹcㄹㄹㄹㄹ
ㄹㄹ <c-ㄹ ㄴㄱㄹc> - >cㄴ? ㄴeㄹ cㄹㄹ,,

ㄹcㄹ -ㄴㄹ -ㄹㄹ ㄴe ㄴcㄹㄹㄹ
ㄹㄹ,, ㄹe eㄹ ㄴ- ㄹㄹㄹ
ㄹeㄹ <cㄹ ㄹcㄹ ㄴc h-ㄹㄹㄹ
ㄱ-ㄱㄹ ㄱ-ㄴ ㄹ,, cㄹ eㄹ ㄹcㄹ ㄴ-ㄹc -ㄹㄹ
ㄹcㄹ eㄹ ㄴ-S ㄹeㄴ, >cㄴ? ㄴcㄹㄹ
ㄹcㄹ eㄴ ㄹc ㄴeㄴ eㄴc -ㄹㄹㄹ
ㄴee ㄹㄹ cㄹㄹc? ㄹㄹㄹㄹ eㄹㄹ ㄱㄱㄹ 0--ㄹ ㄹc- e ㄹeSe ㄹe V-ㄹeㄴ <ㄹe,,

ㄹㄹㄹ -ㄴcㄹ ㄹㄹ eㄹ h-ㄹ Vcl ㄴ-ㄴ eㄴ - ㄴcㄹ,, ㄱ-ㄹ ㄴc ㄹ- ㄹc, ㄹㄹㄹ ㄴㄱㄹ-ㄹ
-ㄴ eㄴe-,,
ㄹ...<c>? - ㄹcㄹ, cㄹ ㄴcㄹ ㄹcㄹ ㄱ- <eㄹ-, ㄴeㄹㄹ
>cㄴ? cㄹ >ㄹ ㄴeㄹ cㄹㄹ,,
ㄹ-ㄴ ㄴ-ㄹ ㄹeㄴ Vcl >cㄹ
>cㄴ? 0cㄱc? ㄴe ㄴeeㄴ ㄱㄱㄹ ㄹc> >eㄹ,,

ミロク＝ユティアの最古の記憶は、家の前の川だった。

アルダのユーリアにある小さな村、アルカディア。村はずれの川向こうにある小さな木の小屋。ミロクは1歳のときからそこにいる。

ミロクは川の前に座って石を投げていた。2年前の最古の記憶でも、ここに座って石を投げていた。

今は何時だろう。夕方のはずだが、昼のように明るいので分からない。ここしばらくずっと白夜だ。眠くなくても日が落ちない。時間の感覚がなくなってしまう。

石を投げようとしたら、誰かが傍にいるのに気付いた。少し驚いて振り返ると、そこには女の子がいた。

知らない女の子だ。クリーム色の厚い毛糸のセーターを着て、茶色いタイトスカートを履いている。鹿のように細い脚には臙脂色のタイツを履いている。

「君はだれ？いつからそこに？」

「ねえ、いっしょに遊ぼう？」

少女は答えずに、ミロクの横に座った。

「いつもここで遊んでるの？」

「ああ。家がそこだから」

「一人で？友達はいないの？」

「いないさ」ミロクは少しふてくされて答えた「みんな、幼稚なんだ」

「ミロク君は大人なんだね」

「え、どうして僕の名前を？」

少女は肩まで伸ばした亜麻色の髪を揺らし、「ふしぎ？」と答えた。

しばらく川で遊んだ。水をかけあって遊んだ。やがて疲れて川原に座り込んだ。

「……ねえ、本当は学校で嫌われてるんでしょ？」

ミロクは黙って下を見た。

「きこえない、したいの？」

歯を食いしばると、ミロクは黙って頷いた。

6-Λ.....eΛ ∩cl <ce∪e∪6

「僕は嘘つきじゃない……」